

トリアージ

皆さんは、トリアージという言葉聞いたことがあると思います。

このトリアージ (triage) というのは、1995年に発生した阪神・淡路大震災で我が国でも広く知られるようになりましたが、大きな災害や事故などにおいて多数の負傷者が発生した際、医師や救急隊員が治療の優先順位を付ける行為をいいます。

救急患者が同時に多数発生した場合、できる限り多くの人命を救うには医療施設や医師など医療関係者、医薬品などの医療資源を効率的に配分する必要があります。トリアージは、医師が、負傷者を短時間で

- ① 最優先治療者
- ② 非緊急治療
- ③ 軽処置
- ④ 不処置群

に振り分け、荷札のようなトリアージタグを次々に患者の手首や足首に付けていきます。タグには名前や年齢、血液型、簡単な症状を記入すると共に、多くの医療関係者が一目でわかるよう、赤、黄、緑、黒のカラー表示をするのが一般的とされています。黒は、殆ど死亡状態か救命不能の状態にある重症患者で、黒のタグが付けられた患者の措置は後回しにされることとなります。

ある対策を講じる場合に、緊急性や事態の深刻さ等に応じて優先順位を決めるという行為は、医療行為におけるトリアージに止まりません。

例えば、現在、国会などで大きな問題となっている大飯原発の再稼働や消費税増税についても、政府において、様々な条件の下で選択され、優先順位を付けられて打ち出されたものです。

トリアージという行為における一番の難しさは、短時間の間に優先順位を決めなければならないということでしょう。

医師は、患者の命に関わる選択をし、政府、政治家は国民や国家の将来に関わる大きな選択をしているのであり、その責任は誠に重大です。

さて、今や、大飯原発の再稼働と消費税増税の議論は、佳境に入ってきました

た。特に、大飯原発の再稼働は既定事実の様になってきており、今週中にも再稼働が決定されそうな状況になっています。また、消費税の増税についても、政府の考えを聞いていると、増税は必然であり、他の選択肢がないように見えます。

政府が、大飯原子力発電所の再稼働と消費税の増税の為に、形振り構わず突き進んでいるように見えるのは、果たして私だけでしょうか。

上述の二つの政策課題は、いずれも日本の将来にとって極めて重要なものであり、問題の先送りは当然許されませんが、しかし、検討は慎重であるべきです。

大飯原発に関していえば、原発の安全性に対する国民の信頼が失われていることが、最大の課題なのです。

福島第一原発の事故原因の究明も終わっておらず、原子力安全・保安院がまとめた安全基準自体も暫定的なものに過ぎない中で、「全電源が失われる事態でも炉心損傷に至らない」といくら総理大臣が説明しても、それだけでは国民の納得を得るのは難しいのではないかと思います。

また、消費税増税についても、国の財政状況や、医療・年金制度の維持のために増税は避けて通れないということは、国民の多くは認識していると思いますが、ただ、その前に、やることがあるのではないかというのが、共通の思いではないでしょうか。

議員の削減など国会改革、公務員制度の改革、年金・医療制度の改革、更には歳出の見直しなどやるべき事が山積している中で、これらの課題を積み残したまま増税に向けて走っている事に国民は厳しい目を注いでいます。

まさに、政府における政策のトリアージが問われています。

ちなみに、毎日新聞による世論調査（6月2日、3日）の結果によると、大飯原子力発電所の再稼働に関する質問について「急ぐ必要はない」と答えた人は71%に達しており、「急ぐべきだ」の23%を大きく上回っています。

また、消費税引き上げに関する質問について、消費税を2014年4月に8%、2015年10月に10%に引き上げる政府案に対し、「賛成」との回答は36%にとどまり、「反対」が57%に上っています。

世論調査に引き摺られて何も決められないのは最悪ですが、国民の不安や懸念に丁寧に対応し、説明責任を果たす努力が求められています。

（塾頭 吉田 洋一）